

『情報基盤センターファクトブックⅡ』
(沿革・構成編)

1. 沿革・設置目的	・・・ P 1
2. センター長	・・・ P 2
3. 副センター長	・・・ P 3
4. 構成	・・・ P 3
5. 予算規模	・・・ P 3
6. 校地・校舎等の状況	・・・ P 3
7. ミッション（教育研究上の目的、設置の趣旨目的）	・・・ P 3
8. 教育研究上の活動状況等	・・・ P 4

1. 沿革・設置目的

◆ 昭和39（1964）年 神戸大学計算センター設立

《設置の趣旨》

計算センターは、本学における研究、教育、事務に関する計算機利用を支援する学内共同利用施設として、昭和39（1964）年4月文部省令に基づき設置された。センターでは、(1)研究のための科学技術計算及び情報処理に関する支援業務、(2)情報処理教育における計算機システムの利用に関する支援業務、(3)事務処理のための計算機利用に関する支援業務を中心とした学内外の学術情報の処理、提供に関する支援活動を行うことを目的として、学術情報データベースの開発、情報処理教育の実施、教務事務システムの構築に尽力した。

計算センターには当時新鋭のOKITAC-5090を導入し、その後、FACOM230-35、ACOS700へと計算機器のレベルアップを図り、昭和54（1979）年4月教務学籍データベースシステム稼働、昭和55（1980）年10月にはTSS端末による情報処理教育を開始している。教務学籍データベースシステムは、全国に先駆ける教務電算化システムであった。

- ・昭和39（1964）年 9月 計算センター建物（現分館）完成
- ・ 同 10月 OKITAC-5090 1号機稼働開始
- ・昭和42（1967）年11月 OKITAC-5090 2号機稼働開始
- ・昭和47（1972）年5月 FACOM230-35 稼働開始
- ・昭和54（1979）年2月 ACOS システム稼働開始
- ・ 同 4月 教務学籍データベースシステム運用開始
- ・昭和55（1980）年10月 TSS 端末による情報処理教育開始

◆ 昭和57（1982）年 総合情報処理センター設置

《設置の趣旨》

昭和50年に始まった本学大学院構想の中で、自然科学系と文化学系の総合研究科の具体的な計画が進むに伴い、総合性と学際性を発揮させるために、学術情報の収集と教育関連情報の処理が必要となったことに端を発して、研究成果等のデータベース構築が検討され、昭和52（1977）年2月大学全体の情報処理システムに関する長期構想がとりまとめられた。

その後、昭和57（1982）年4月に総合情報処理センターへ改組し、同年9月図書館事務システムの開発、昭和60（1985）年光ファイバーによる学内高速情報伝達システムを基盤とした情報ネットワークの構築、ダウンサイジングへの対応を図って、学内の情報処理機能の充実に努めた。昭和63（1988）年にJUNET、平成4（1992）年にSINETに加入し、平成6（1994）年と平成8（1996）年には学内LANを整備した。平成9（1997）年には、汎用大型計算機からUNIXサーバ群に計算機システムを更新した。

- ・昭和57（1982）年9月 図書館管理システム運用開始
- ・昭和58（1983）年2月 総合情報処理センター本館完成
- ・ 同 3月 教育・事務用計算機（ACOS-650）導入
- ・ 同 10月 教務学籍データベースシステム稼働（漢字対応）
- ・平成6（1994）年3月 教育研究用ネットワーク（KHAN）完成

- ・平成8（1996）年3月 教育研究用ネットワーク（KHAN96）更新
- ・平成9（1997）年1月 教育用計算機システム更新
- ・平成9（1997）年4月 全学生へのアカウント発行

◆ 平成15（2003）年 学術情報基盤センターに改組

《設置の趣旨》

高度な情報技術が利用可能なインフラ整備は、学問分野を問わず教育研究の発展には欠かすことはできず、また管理運営の業務においても急務となる中、ITを取り巻く環境の変化と将来的な業務変化に対応するため、平成13（2001）年度に新たな組織と役割に関する検討を開始した。

平成15（2003）年4月、総合情報処理センターを学術情報基盤センターへ改組した。情報教育の在り方を研究し、安全で安定した情報サービスの提供を行い、情報ネットワーク基盤の整備・運用を行うことを目的として、教育支援基盤研究部門、学術情報処理研究部門、ネットワーク基盤研究部門を有する9名体制の教員組織を新たに設置することとした。平成18（2006）年1月、統合ユーザ管理システムの導入により、全構成員へアカウントを発行し、ユーザ認証基盤の提供を開始した。

- ・平成15（2003）年 4月 学術情報基盤センターに改組
- ・ 同 10月 大学統合に伴い、神戸商船大学情報処理センターを統合。
- ・平成18（2006）年 1月 統合ユーザ管理システムの導入
- ・ 同 2月 神戸大学 ICT 戦略を制定
- ・平成21（2009）年 10月 キャンパス情報ネットワークシステム（KHAN2009）更新

◆ 平成22（2010）年 情報基盤センターに改組

《設置の趣旨》

「神戸大学ビジョン2015」の達成、「神戸大学ICT戦略」の実現に向けて、CIO（情報化統括責任者）及びCISO（情報セキュリティ統括責任者）を中心としたマネジメント体制の下、ICTの活用を推進するため、高度で先端的な情報基盤の整備・提供及び研究開発を行うことを目的として、平成22（2010）年7月に学術情報基盤センターを情報基盤センターに改組した。

教育研究のための情報基盤と大学運営のための事務情報を包括的に取り扱うことによって、大学のICT推進の中核となる組織として位置づけられた。情報基盤センターは、教育支援基盤研究部門、学術情報処理研究部門、ネットワーク基盤研究部門に加えて、情報化推進、情報管理、情報公開、個人情報保護に関する業務を行う情報管理室、事務システムの維持管理、企画に関する事務を行う情報企画課の業務の一部を引き継ぐ事務情報システム部門で構成されることになった。

- ・平成23（2010）年 1月 教育研究用計算機システム(KAISER2010)導入
- ・平成24（2012）年 5月 神戸大学新 ICT 戦略を制定
- ・平成24（2012）年 6月 神戸大学 ICT 戦略行動計画を制定

2. センター長

◆ 榎村志郎（専門：法社会学）

任期：2期目（H26.7.1～H28.6.30）



3. 副センター長

◆ 田村 直之 (専門: ソフトウェア)

任期: 1 期目 (H26. 7. 1~H28. 6. 30)

4. 構成

◆ 情報基盤センター

- ・教育支援基盤研究部門
- ・学術情報処理研究部門
- ・ネットワーク基盤研究部門
- ・事務情報システム部門・事務部

5. 予算規模

平成 26 年度

運営費交付金等 714 百万円

外部資金 12 百万円

総計 726 百万円

※ 各部局における予算執行額を予算規模としている (ただし, 設備整備費補助金・施設整備費補助金及び目的積立金は除く)。

※ 百万円未満を四捨五入して計上。

6. 校地・校舎等の状況

◆ 建物の延べ床面積

2,319m²

◆ 教室等

- ・情報処理学習室 2 室

7. ミッション (教育研究上の目的、設置の趣旨目的)

センターは, 神戸大学(以下「本学」という。)における ICT の活用を推進するため, 高度で先端的な情報基盤の整備・提供及び研究開発を行うことを目的とする。

8. 教育研究上の活動状況等

◆海外において通算して1年以上教育研究に従事した日本人教員の在籍状況

1人